巻頭特集

親鸞聖人の教えを学び、地域と共に歩む

真宗大谷派 桑名別院本統寺

桑名の寺町（現在の桑名市北寺町周辺）は、本多忠勝が城下町を開いた慶長の町割りの際、多数の寺院が集められた町である。中でも本統寺は「桑名の御坊さん」との通称で地域に親しまれ、桑名の中心寺院として隆盛を誇っていた。

本願寺12代教如息女の長姫を開基とする寺院

戦国時代、石山本願寺と織田信長が争っていたとき、交通の要所であった桑名に設けられた一宇の坊舎（今寺と俗称された）が、現在の桑名別院本統寺の前身という。伊勢・尾張・美濃三国の真宗の評議所で、本山との連絡や諸種の法務、非常時の協議集合を図るための場所であった。

慶長元（1596）年、本願寺12代教如上人はこの今寺を三国の録所（地域における教化の中心寺院・御坊）に取り立て、息女の長姫を寺務職代として派遣。当時、長姫は9歳であったため、小松（石川県）勧帰寺の玄誓が寺務を執った。

桑名別院本統寺
木造（こづくり）崇臣さん

寛永18（1641）年に本堂が建立される。慶安2（1649）年には教如上人の考えに基づき、正当の血統の寺として、寺号を「本統寺」と改称した。

延宝年間（1673〜1681）に失火で伽藍が焼失したが、貞享3（1686）年、豪商の山田彦左衛門の寄進により、本堂の再建がなる。間口15間2尺（約27・9メートル）、奥行14間4尺（約26・6メートル）、八棟造りの壮大な建築であった。広大な境内には書院、広間、鐘楼、茶所、経蔵などが建ち並んだ。参拝に訪れる人も多く、周囲には参拝者相手の商店が進出して、門前町が形成されていった。

「三八市」で知られる寺町通り商店街に面した表門（山門）は、戦後に大阪八尾別院から移築したもので、本柱の背後に控柱が2本設けられた薬医門である

徳川家茂や明治天皇の宿所として利用された

桑名の中心寺院らしく、高い身分の宿泊所ともなった。

文久3（1863）年、14代将軍徳川家茂が孝明天皇に拝謁するため上洛する。2月13日に江戸を立ち、28日の夕刻、桑名に着いた。桑名宿で最高の格式を持つ大塚本陣が、安政の大地震で損壊しており、本統寺に泊まったようだ。

明治元（1868）年9月20日、東京遷都に伴い、明治天皇は東海道を下り、東京へ行幸される。愛知県弥富市の焼田港跡にある「明治天皇焼田港御着船所跡」記念碑（昭和42年建立）に「伊勢路の関、四日市の各宿駅を経て、同月二十五日午後二時、桑名の宿駅真宗大谷派別院本統寺に無事に到着、一泊された」と記されている。さらに明治13（1880）年、山梨・長野・三重・京都を巡幸された際にも宿泊された。

また、貞享元（1684）年には松尾芭蕉が『野ざらし紀行』の旅の途中、宿泊した。当時の住職、第3代慧浄院琢慧は古益という俳号を持ち、芭蕉とも同門で、親交があったことから句会が催された。そのときに詠まれたのが「冬牡丹　千鳥よ雪の　ほととぎす」で、季語ばかりが連なる特異な句である。

空襲で灰燼に帰すも戦後早くに復興を果たす

明治に入り、境内には「聚星閣」と称す建物が加わった。桑名城の遺構（廃城になる際に移築した櫓）と言われる。

豪壮な建造物群を擁した桑名別院本統寺であったが、昭和20（1945）年、戦禍に見舞われる。同年7月17日・24日の2度の空襲では、桑名の市街地の約9割、全市民の約7割が被害にあい、同院においても建物のことごとくが焼失した。

戦後、多くの門徒の願いを受け、焼失から5年後、いち早く復興される。京都の時宗寺院、金蓮寺が移転時に残存していた本堂を買い付け、本堂とした。入母屋造り、本瓦葺き、桁行5間で、正面に3間の向拝が付く。山門と鐘楼堂、南北門は大阪府の八尾別院から移築し、岐阜県海津市の豪農、菱田氏から屋敷を譲り受けて庫裡とした。

その後、本堂は平成12（2000）年に改修が施され、平成26（2014）年には「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌」の記念事業として、本堂内陣などの修復が行われた。

門徒、市民らが参加する多彩な行事や活動を展開

桑名別院本統寺では年間を通じて、各種行事・法要が執り行われる。

この3月、4月を見てみると、主な行事として3月17日〜23日の「春季彼岸会」、3月31日の「花まつり子ども大会」、4月8日の「花まつり」などが並ぶ。毎月第1日曜日の午前7時から開かれる「人生講座」も人気が高い。

3月11日には「勿忘の鐘」を開催。東日本大震災で犠牲になった人たちへの追悼と、復興への祈りを捧げる行事で、今年で9回目を数える。当日は本堂での法要後、地震発生時の午後2時46分から鐘を撞く。

三重県内の若手僧侶が中心となり、地域とともに取り組んでいるのが「福島のこどもたちを三重へ」プロジェクトである。被災した福島の児童を、夏休みに三重で一時保養するというもので、同院でも募金活動を続けている。プロジェクトでは婦人会が食事をつくりサポートするほか、福島と三重の子どもによる合同キャンプを実施。震災の年に生まれた子どもが成人になるまでの支援を目標としている。

そんな桑名別院本統寺の今後を尋ねると「教化も大切ですが、まずは人々が気軽に来られるような場所にしたいですね」と同院会計の木造崇臣さんは思いを話す。

桑名別院本統寺の本堂。内陣には本尊の阿弥陀如来像が安置されている

❶『久波奈名所図会 上』本統寺（桑名市立中央図書館蔵本）。「八棟造り」と呼ばれる、複雑に配置された多数の棟と破風を備えた屋根が見て取れる ❷桑名空襲の戦禍を免れた親鸞聖人の銅像。見上げると、笠には焼夷弾が貫通した小さな穴が空いている ❸松尾芭蕉の句碑。表面右寄りに「冬牡丹千鳥よ雪のほととぎす　はせを」と刻まれている。桑名の俳人、小林雨月によって昭和12年に建立された。桑名市指定文化財（昭和43年2月20日） ❹昨年の「勿忘の鐘・灯」には約50人の市民が参列し、東日本大震災の被災地を想い、鐘を撞いた ❺昨年の「福島の子どもたちを三重へ」プロジェクト

Information

真宗大谷派 桑名別院本統寺
[ところ]桑名市北寺町47
[電話]0594-22-0652
http://mie-betsuin.com

「福島のこどもたちを三重へ」プロジェクト
http://booses.net/

文／長屋整徳　写真／編集室　デザイン／chica